

# 「夫婦有別」から「愛情プラス分業」へ

——井上哲次郎著修身（倫理）教科書と蔡元培の夫婦倫理観の近代化について——

龔 穎（倫理文化研究センター特任研究員）

## はじめに

中国の近代化過程においては、明治日本からの影響が大きい、とよく言われるが、具体例による検証は未だに十分とは言えないのが現状であろう。このような現状改善に向け、本稿は、儒教の夫婦倫理がいかに近代化されたか、という問題を考察してみたいと思う。考察に当たって、具体的な作業のステップは以下のようにになると考える。まず、儒教古来の夫婦倫理すなわち「夫婦有別」という規範の意味内容を確認し、続いて「夫婦有別」が教育勅語の中で「夫婦相和シ」へと変化してしまった事実を簡単に説明し、それからこの明治期に起きた変化が中国の思想家にも影響を及ぼした実例の一つを検証してみたい。以上の作業を行うために利用する主な資料は、井上哲次郎などの明治期の学者たちによって編纂された修身（倫理）教科書と、近代中国における著名な啓蒙思想家・教育家の蔡元培（1868-1940）が編著した修身教科書である。